

当該地域における区域指定の状況を表 2.2-32 に示す。(平成 31 年 3 月 25 日現在。解除台帳は、[参考資料 7](#) 参照)

表 2.2-32 土壌汚染対策法に基づく要措置区域及び形質変更時要届出区域

(平成 31 年 3 月 25 日現在)

| 整理番号 | 指定年月日 | 指定番号 | 要措置区域等の所在地 | 区域の面積 | 基準に適合していない(していなかった)特定有害物質の種類 |
|--------|-------------------|--------|--------------------------------------------------------|---------------|------------------------------------------------|
| 整-28-1 | 平成 28 年 8 月 15 日 | 要-4 号 | 東区箱崎 6 丁目 3330 番 5 の一部 | 100 平方メートル | 砒素及びその化合物 |
| 整-29-1 | 平成 29 年 5 月 22 日 | 形-19 号 | 東区箱崎 6 丁目 3330 番 5 の一部 | 6600 平方メートル | 水銀及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 |
| 整-29-3 | 平成 29 年 12 月 11 日 | 要-7 号 | 東区箱崎 6 丁目 3330 番 3 の一部 東区箱崎 6 丁目 3330 番 5 の一部 | 1157 平方メートル | 六価クロム化合物 水銀及びその化合物 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 |
| | | 形-20 号 | 東区箱崎 6 丁目 3330 番 3 の一部 東区箱崎 6 丁目 3330 番 5 の一部 | 200 平方メートル | 水銀及びその化合物 鉛及びその化合物 |
| 整-29-5 | 平成 30 年 5 月 31 日 | 要-8 号 | 東区箱崎 6 丁目 3330 番 5 の一部 | 100 平方メートル | 砒素及びその化合物 |
| | 平成 29 年 12 月 11 日 | 形-21 号 | 東区箱崎 6 丁目 3330 番 3 の一部 東区箱崎 6 丁目 3330 番 5 の一部 | 15,833 平方メートル | 水銀及びその化合物 鉛及びその化合物 |

注 1) 指定番号 要-○号:要措置区域、形-○号:形質変更時要届出区域

注 2) 事業実施区域に係る指定区域のみを表示している。

出典: 福岡市環境局ホームページ

3) 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染対策工事

九州大学では、箱崎キャンパス敷地内の汚染土壌について、土壌汚染調査によって判明した汚染土壌を掘削除去する計画で実施している。

工法としては、掘削した汚染土壌のうち、洗浄可能な汚染土壌については大学の敷地内に設置した仮設洗浄処理プラントで土壌汚染対策法に基づく基準値以内に洗浄後、敷地内へ埋め戻している。

洗浄に適さない汚染土壌や洗浄作業において凝集した汚染物質(脱水ケーキ)は大学の敷地外へ搬出し、土壌汚染処理施設にて適切に処理を行っている。しかしながら今後の解体工事、埋蔵文化財調査等の進捗状況により、掘削除去以外の対応が必要となる場合、本事業のスケジュールを考慮の上、土壌汚染対策法に基づき適切に対応する。



図 2.2-16 仮設洗浄処理プラント

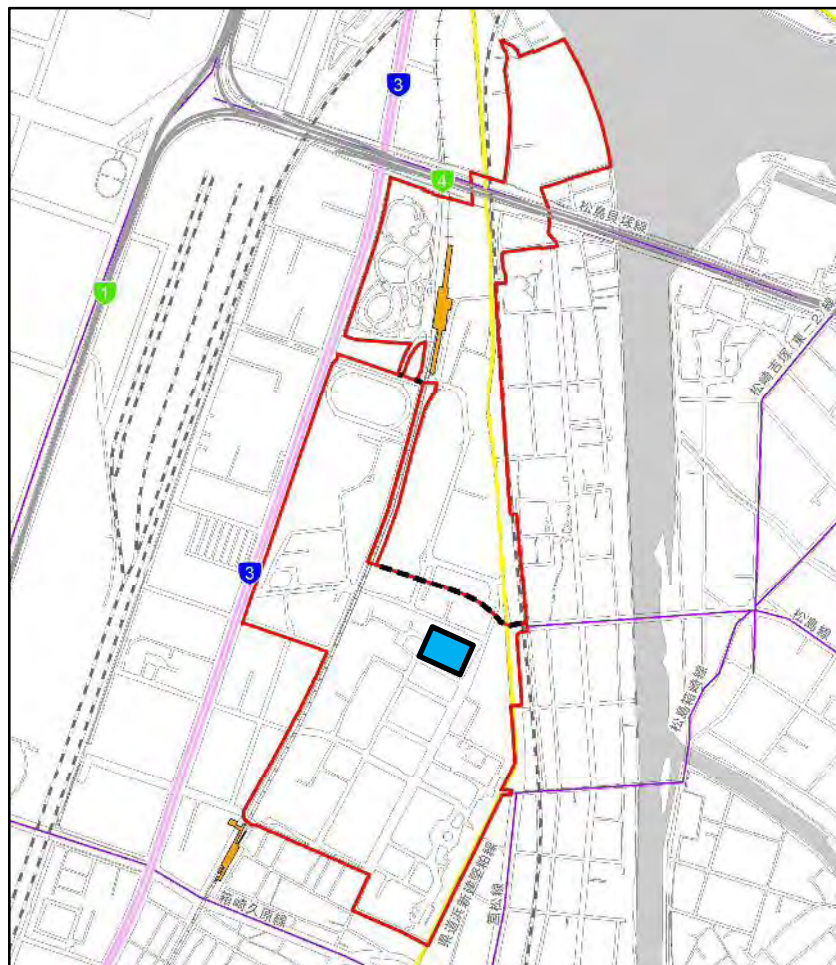


図 2.2-17 仮設洗浄処理プラント設置位置

(2) 地盤

事業実施区域及びその周囲で地盤沈下は発生していない。

また、「工業用水法」及び「建築物用地下水採取の規制に関する法律」による地下水採取を規制する地域には指定されていない。

2.2.4 地形・地質の状況

(1) 地形・地質

1) 地形

事業実施区域及びその周囲の地形分類は、図 2.2-18 に示すとおりである。

事業実施区域及びその周囲は、博多湾沿岸の東部に位置し、博多湾へ流下する多々良川、御笠川、那珂川などにより形成される福岡平野の一部にあり、ほぼ平坦な海岸砂丘、砂浜と平野(三角州)、埋立地である。

2) 地質

事業実施区域及びその周囲の表層地質は、図 2.2-19 に示すとおりである。

事業実施区域及びその周囲は、大部分が海浜砂層の砂であり、東側に沖積層の砂・泥・礫が分布する。名島周辺はシルト岩を伴う、砂岩、礫岩が見られる。

3) 重要な地形・地質

事業実施区域及びその周囲の重要な地形・地質を表 2.2-33 及び図 2.2-20 に示す。

事業実施区域の周囲に名島の檣石(ほばしらいし)、古第三紀岩石海岸が確認されている。

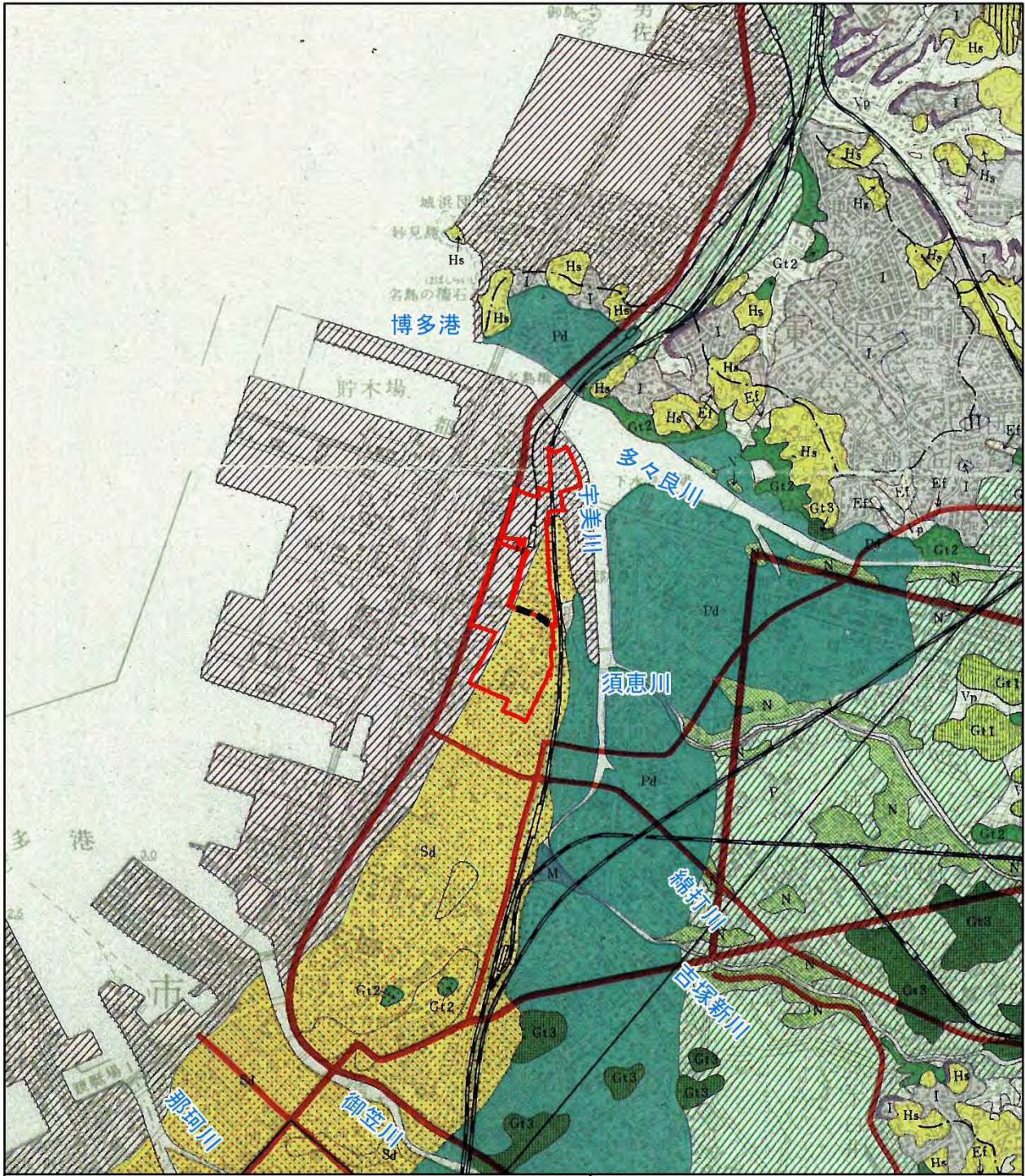
名島の檣石は、多々良川の河口、名島神社境内の海岸にある古第三紀漸新世前期(約 3,500 万年前)に形成された化石(珪花木)であり、昭和 9 年に天然記念物(国)に指定されている。

古第三紀岩石海岸は、新生代古第三紀に形成された砂岩・礫岩を主とする露出した岩石からなる海岸地形で、福岡市環境配慮指針に学術的価値の高い地質として掲載されている。

表 2.2-33 重要な地形・地質

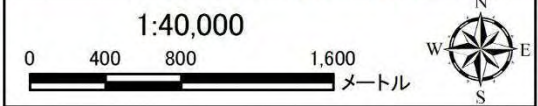
| 区 分 | | 名 称 |
|----------|------------|---------------|
| 重要な地形・地質 | 国指定天然記念物 | 名島の檣石(ほばしらいし) |
| | 学術的価値の高い地質 | 古第三紀岩石海岸 |

出典:福岡市環境配慮指針(改定版)(平成28年9月 福岡市環境局)



凡 例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界

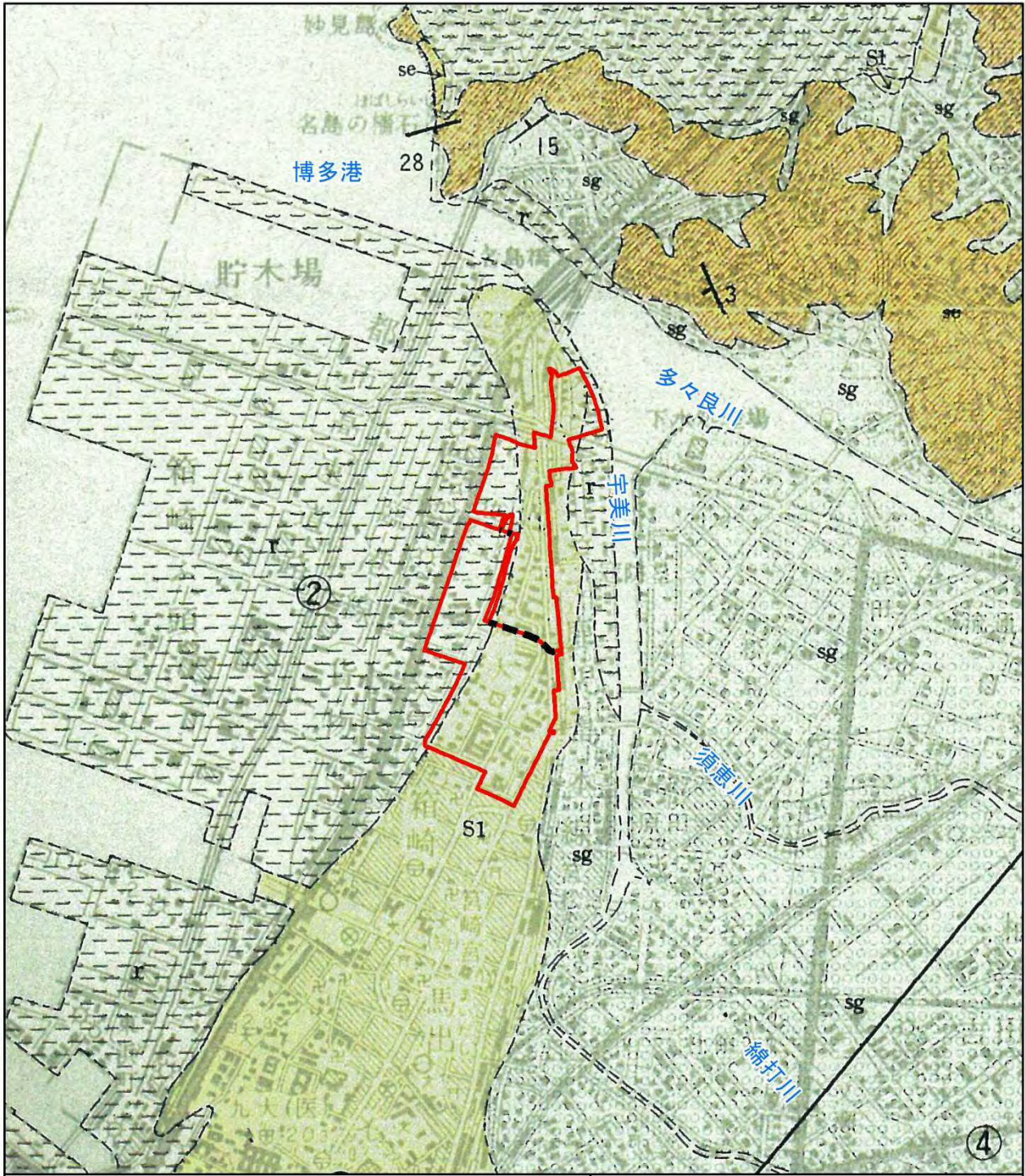


出典：土地分類基本調査図（地形分類図）
 （昭和59年3月、国土庁土地局国土調査課）

図 2.2-18 地形分類図

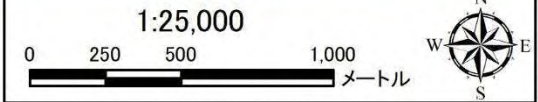


地形分類図凡例



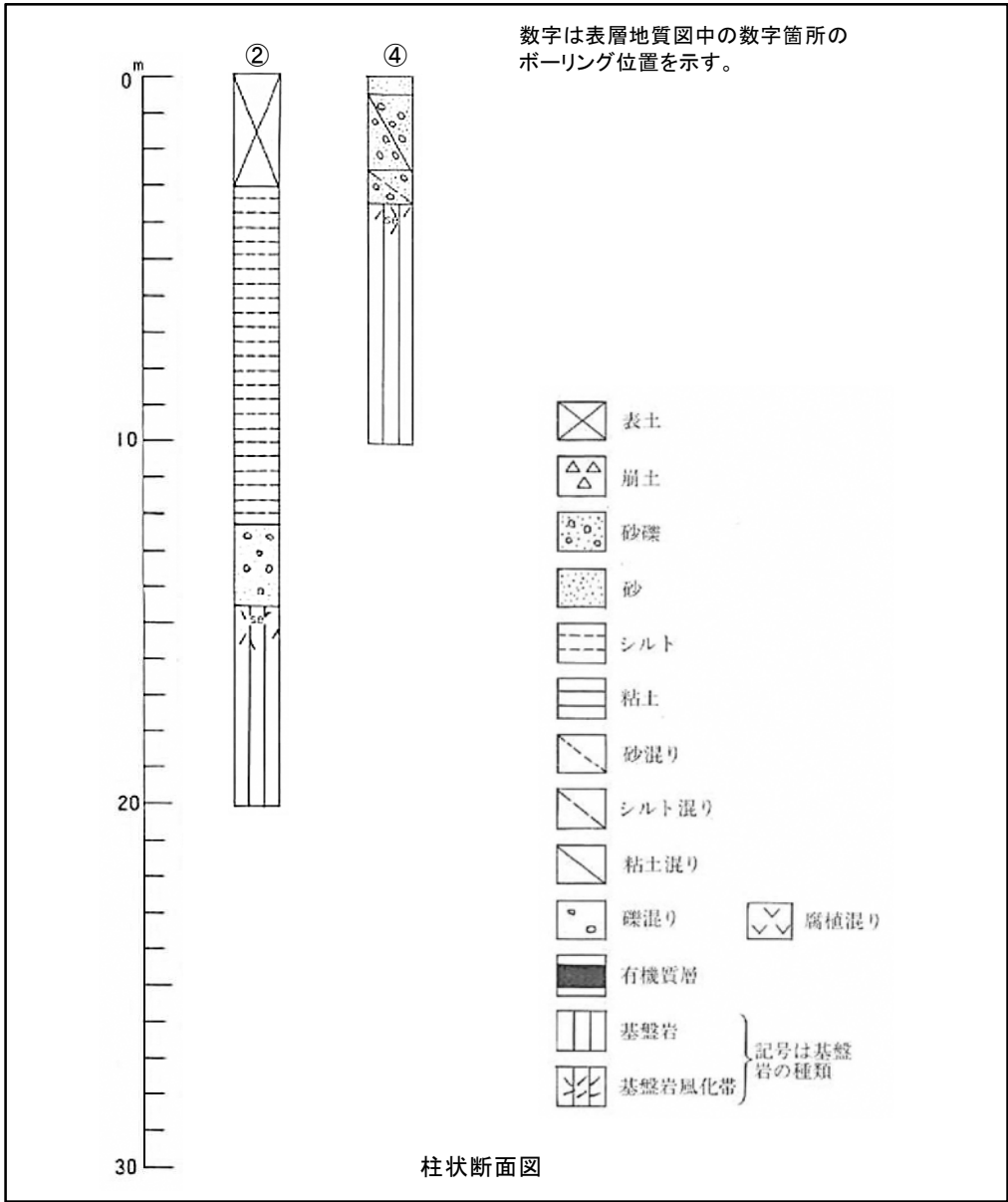
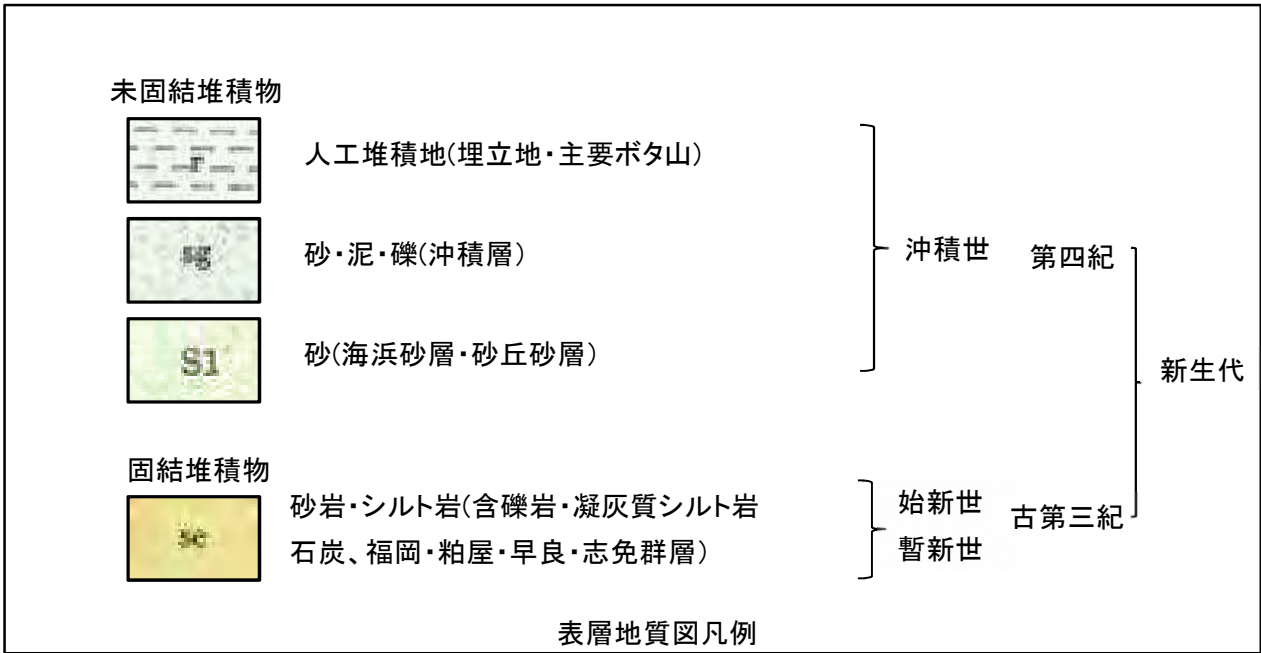
凡例

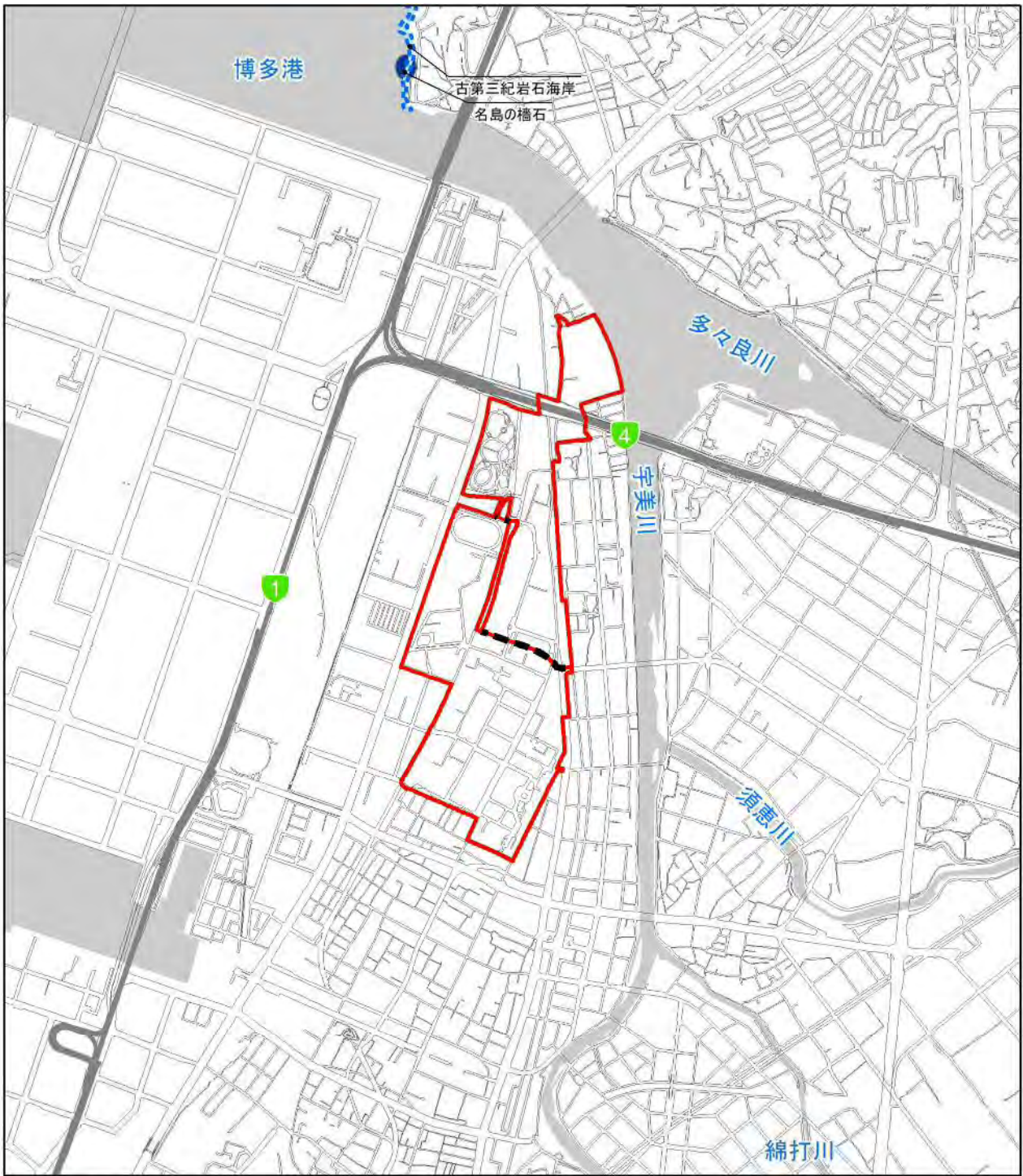
- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界



出典：土地分類基本調査図（表層地質図）
 （昭和59年3月、国土庁土地局国土調査課）

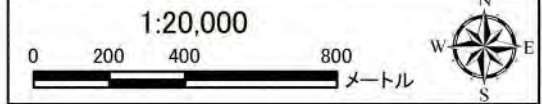
図 2.2-19 表層地質図





凡例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- 水域
- 古第三紀岩石海岸
- 名島の檣石



出典：福岡市環境配慮指針(改定版)(平成28年9月、福岡市)

図 2.2-20 重要な地形・地質位置図

2.2.5 動物、植物、生態系の状況

(1) 動物の生息状況

事業実施区域及びその周囲の生息状況は、「福岡市環境配慮指針(改定版)」(平成28年9月 福岡市環境局)によると、以下に示すとおりである。

1) 哺乳類

事業実施区域及びその周囲における哺乳類の生息状況について、重要な種は確認されていない。

2) 両生類・爬虫類

事業実施区域及びその周囲における両生類・爬虫類の生息状況について、重要な種は確認されていない。

3) 鳥類

事業実施区域及びその周囲における鳥類の重要な種の生息状況は、表 2.2-34 及び図 2.2-21 に示すとおりである。

重要な種は、クロツラヘラサギ、カンムリカイツブリ、コアジサシ、ズグロカモメ、ダイシャクシギ、ハチクマ、ハヤブサ、ミサゴ、オオヨシキリ、キビタキ等の48種である。

表 2.2-34 事業実施区域及びその周囲の鳥類

| 目 | 科 | 種名 | 福岡市 環境配 慮指針 | カテゴリー | | | |
|---------|--------|------------|-------------------|------------|------------|-----------|--|
| | | | | 環境省 RDB | 福岡県 RDB | その他の指定状況 | |
| カイツブリ | カイツブリ | カンムリカイツブリ | ● | | NT | | |
| コウノトリ | サギ | チュウサギ | ● | NT | NT | | |
| | | カラシラサギ | ● | NT | EN | | |
| | | アマサギ | ● | | NT | | |
| | | ササゴイ | ● | | NT | | |
| | トキ | ヘラサギ | ● | DD | EN | | |
| | | クロツラヘラサギ | ● | EN | EN | | |
| カモ | カモ | ツクシガモ | ● | VU | NT | | |
| | | オシドリ | ● | DD | NT | | |
| | | トモエガモ | ● | VU | VU | | |
| | | シノリガモ | ● | | VU | | |
| | | ホオジロガモ | ● | | VU | | |
| | | アカハジロ | ● | DD | | | |
| | | マガン | ● | NT | | 国指定天然記念物 | |
| | | ミコアイサ | ● | | VU | | |
| タカ | タカ | ハイタカ | ● | NT | | | |
| | | ハチクマ | ● | NT | NT | | |
| | | ミサゴ | ● | NT | | | |
| | ハヤブサ | ハヤブサ | ● | VU | VU | | |
| | | チドリ | ● | VU | NT | | |
| チドリ | チドリ | シロチドリ | ● | VU | NT | | |
| | | イカルチドリ | ● | | VU | | |
| | シギ | ウズラシギ | ● | | VU | | |
| | | ヘラシギ | ● | CR | CR | | |
| | | シベリアオオハシシギ | ● | DD | | | |
| | | アカアシシギ | ● | VU | | | |
| | | カラフトアオアシシギ | ● | CR | CR | 国内希少野生動物種 | |
| | | ダイシャクシギ | ● | | VU | | |
| | | ホウロクシギ | ● | VU | VU | | |
| | | オオジシギ | ● | NT | | | |
| | | オオソリハシシギ | ● | VU | NT | | |
| | | オグロシギ | ● | | NT | | |
| | | ハマシギ | ● | NT | NT | | |
| | | ツルシギ | ● | VU | | | |
| | | ミュビシギ | ● | | NT | | |
| | セイタカシギ | ● | VU | | | | |
| | カモメ | ズグロカモメ | ● | VU | VU | | |
| | | コアジサシ | ● | VU | VU | | |
| | スズメ | ウグイス | オオヨシキリ | ● | | NT | |
| | | | センダイムシクイ | ● | | VU | |
| ヒタキ | | キビタキ | ● | | | | |
| | | オオルリ | ● | | NT | | |
| | | コサメビタキ | ● | | DD | | |
| ツリスガラ | | ● | | NT | | | |
| サンショウクイ | | ● | VU | CR | | | |
| ツグミ | | ● | | NT | | | |
| ハト | ハト | アオバト | ● | | | 専門家の指摘*1 | |
| アビ | アビ | シロエリオオハム | ● | | NT | | |
| ツル | クイナ | ● | | NT | | | |

注) 出典: 福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

カテゴリー: 環境省 RDB: レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 2 鳥類(2014 年 9 月)

CR: 絶滅危惧 I A 類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)

EN: 絶滅危惧 I B 類(I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

VU: 絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

DD: 情報不足(評価するだけの情報が不足している種)

福岡県 RDB: 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011-植物群落・植物・哺乳類・鳥類-(平成 23 年 11 月)

CR: 絶滅危惧 I A 類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)

EN: 絶滅危惧 I B 類(I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

VU: 絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

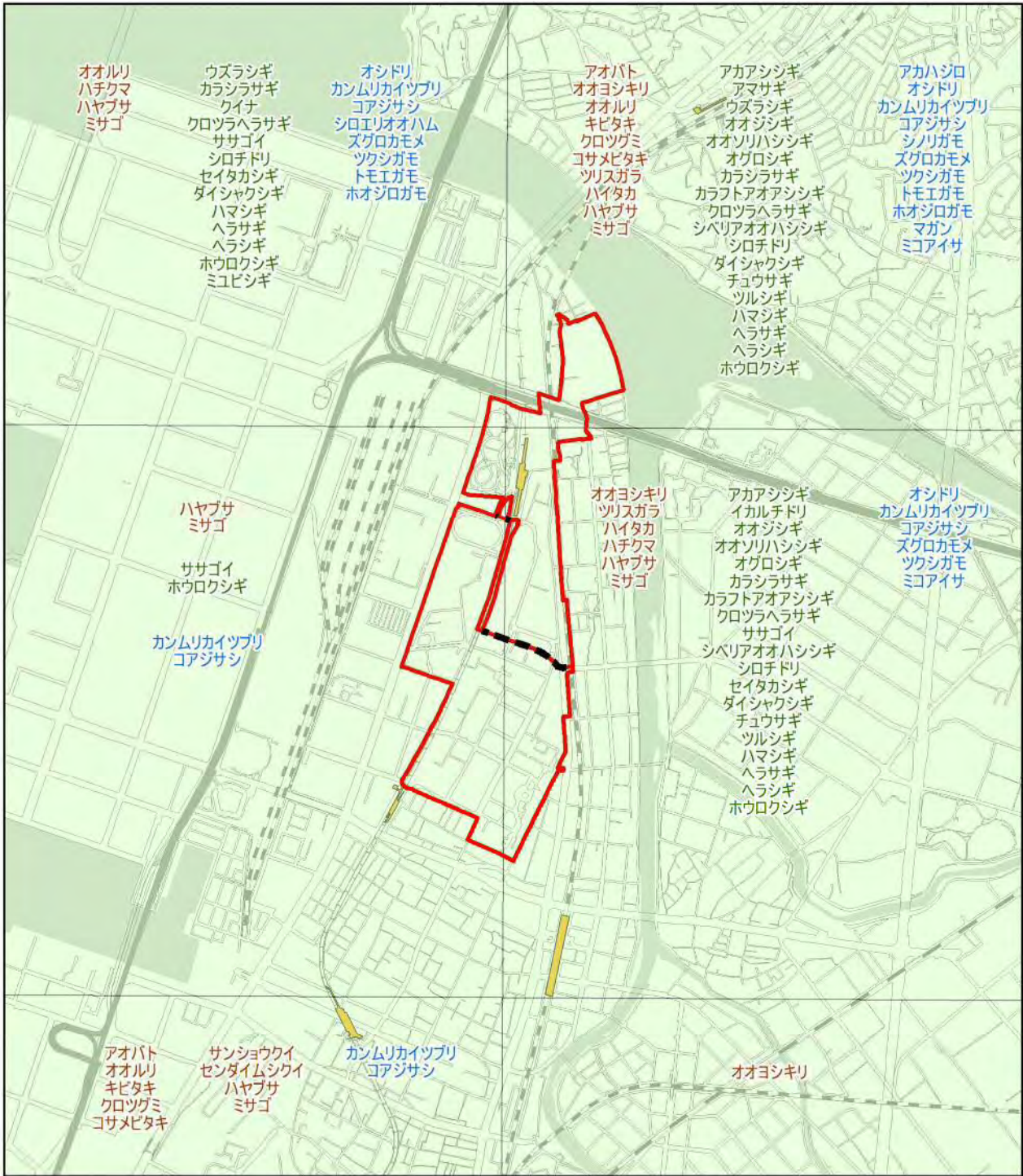
DD: 情報不足(評価するだけの情報が不足している種)

その他の指定状況: 天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘

天然記念物: 「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律」において、国内希少野生動物種、国際希少野生動物種に該当する種及び亜種

専門家の指摘*1 福岡市では確認されることが少なくなった種



凡例

| | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業実施区域 | 福岡都市高速 | 鳥類 |
| 北エリア・南エリア境界 | 駅 | 種名：陸鳥 |
| | JR | 種名：水辺鳥 |
| | 新幹線 | 種名：水鳥 |
| | 私鉄 | |
| | 地下鉄 | |

0 200 400 800メートル

1:20,000

出典：福岡市環境配慮指針（改定版）（平成28年9月、福岡市）

図 2.2-21 動物の分布状況（鳥類）

4) 昆虫類

事業実施区域及びその周囲における昆虫類の重要な種の生息状況は、「福岡市環境配慮指針(改定版)」(平成 28 年 9 月 福岡市環境局)によると、表 2.2-35 及び図 2.2-22 に示すとおりである。

重要な種は、ベニイトトンボ、アオヤンマの 2 種である。

表 2.2-35 事業実施区域及びその周囲の昆虫類

| 目 | 科 | 種名 | 福岡市 環境配 慮指針 | カテゴリー | | |
|-----|-------|---------|-------------------|------------|------------|----------|
| | | | | 環境省 RDB | 福岡県 RDB | その他の指定状況 |
| トンボ | イトトンボ | ベニイトトンボ | ● | NT | | |
| | ヤンマ | アオヤンマ | ● | NT | VU | |

注) 出典: 福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

カテゴリー:

環境省 RDB: レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 5 昆虫類 (2015 年 2 月)

NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

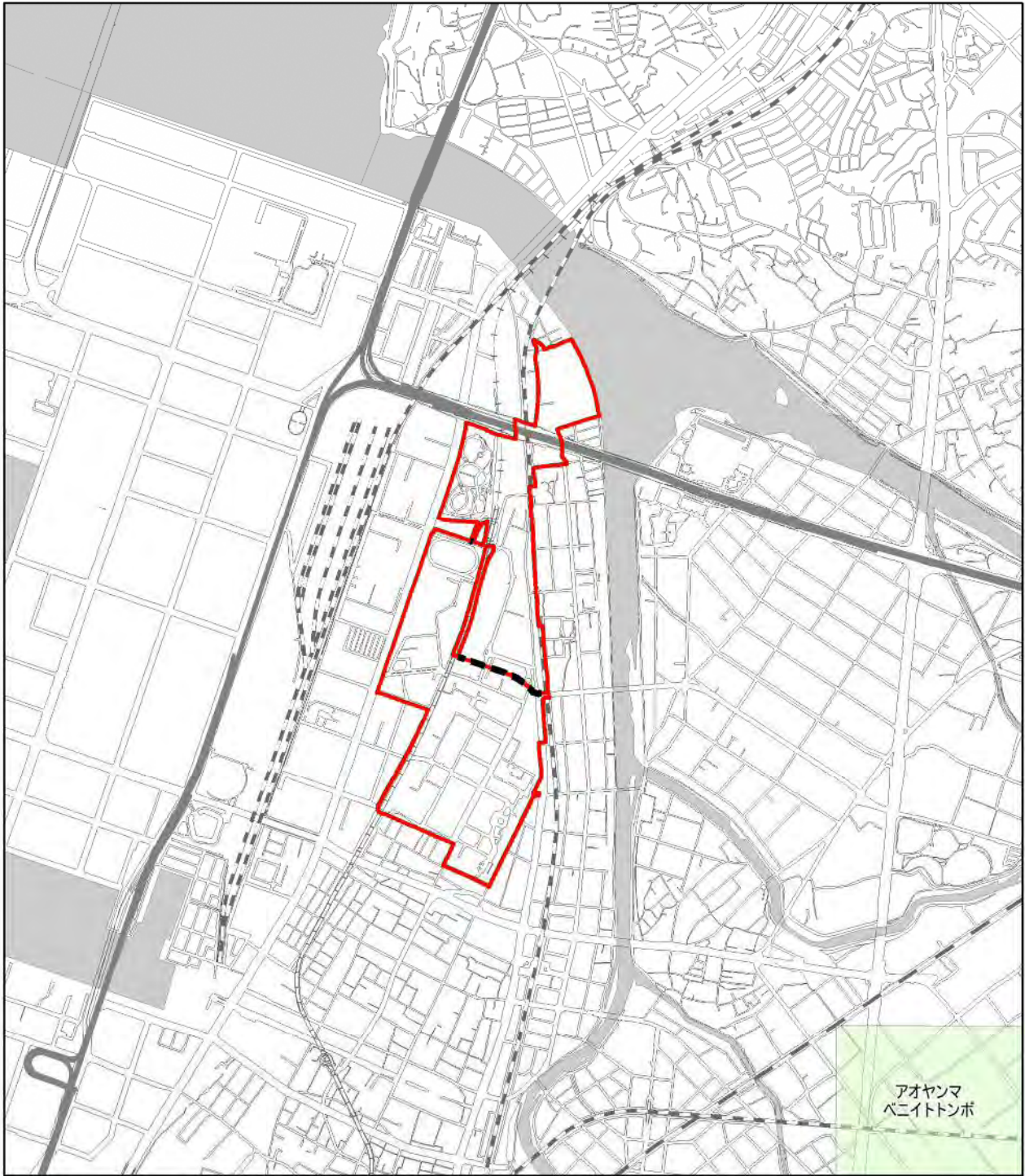
福岡県 RDB: 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 - 爬虫類 / 両生類 / 魚類 / 昆虫類 / 貝類 / 甲殻類その他 / クモ形類等 - (平成 26 年 8 月)

VU: 絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種)

その他の指定状況: 天然記念物・種の保存法等の指定状況, 専門家の指摘

天然記念物: 「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において、国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種に該当する種及び亜種



凡 例

■ 事業実施区域

■ 北エリア・南エリア境界

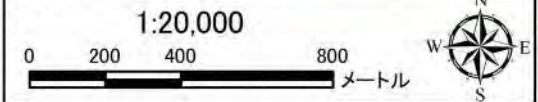
— 福岡都市高速

— JR

— 新幹線

— 私鉄

— 地下鉄



出典：福岡市環境配慮指針（改定版）（平成28年9月、福岡市）

図 2.2-22 動物の分布状況（昆虫類）

5) 魚類

事業実施区域及びその周囲における魚類の重要な種の生息状況は、「福岡市環境配慮指針(改定版)」(平成 28 年 9 月 福岡市環境局)によると、表 2.2-36 及び図 2.2-23 に示すとおりである。

重要な種は、アユ、エドハゼ、シロウオ、チワラスボ、トビハゼ、マサゴハゼ、ミナミメダカの 7 種である。

表 2.2-36 事業実施区域及びその周囲の魚類

| 目 | 科 | 種名 | 福岡市 環境配 慮指針 | カテゴリー | | |
|-----|-----|--------|-------------------|------------|------------|----------|
| | | | | 環境省 RDB | 福岡県 RDB | その他の指定状況 |
| サケ | アユ | アユ | ● | | NT | |
| スズキ | ハゼ | エドハゼ | ● | VU | VU | |
| | | シロウオ | ● | VU | NT | |
| | | チワラスボ | ● | EN | VU | |
| | | トビハゼ | ● | NT | VU | |
| | | マサゴハゼ | ● | VU | NT | |
| ダツ | メダカ | ミナミメダカ | ● | VU | NT | |

注) 出典: 福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

カテゴリー:

環境省 RDB: 「レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 4 汽水・淡水魚類」(平成 27 年 2 月 環境省)

EN: 絶滅危惧 I B 類 (I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

VU: 絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧 (現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

福岡県 RDB: 「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 - 爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年 8 月 福岡県)

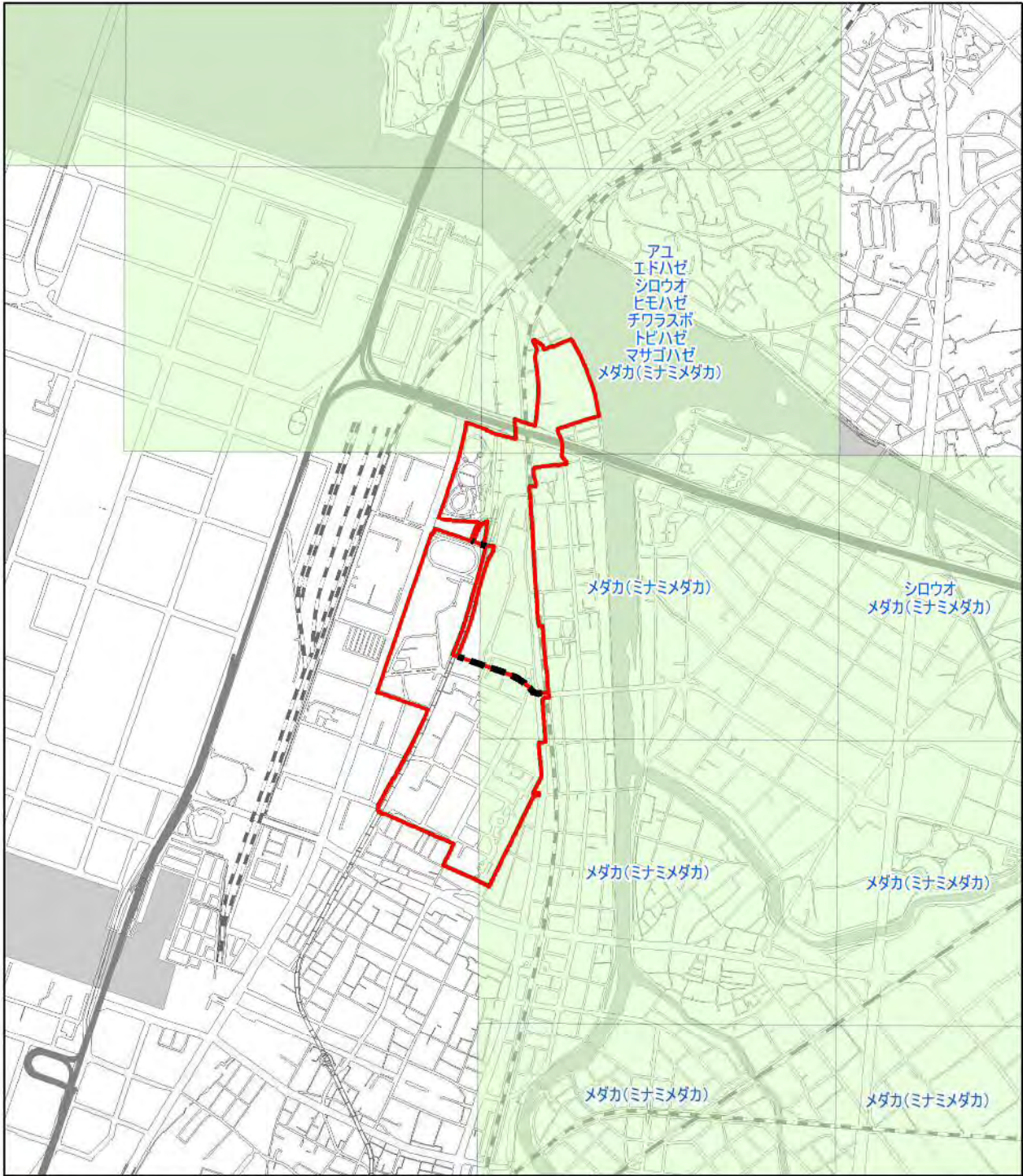
VU: 絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧 (現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

その他の指定状況: 天然記念物・種の保存法等の指定状況, 専門家の指摘

天然記念物: 「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において、国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種に該当する種及び亜種



凡 例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄

1:20,000

0 200 400 800メートル

出典：福岡市環境配慮指針(改定版)(平成28年9月、福岡市)
平成30年6月確認

図 2.2-23 動物の分布状況(魚類)

6) 貝類、甲殻類その他

事業実施区域及びその周囲における貝類、甲殻類その他の重要な種の生息状況は、「福岡市環境配慮指針(改定版)」(平成28年9月 福岡市環境局)によると、表2.2-37~38及び図2.2-24に示すとおりである。

重要な種は、貝類はヒロクチカノコ、ウミニナ、オカミミガイ、クリイロカワザンショウ、テリザクラ、ワカウラツボ、ウネナシトマヤガイの7種である。

また、甲殻類その他は、アリアケガニ、オサガニ、ハクセンシオマネキ、ハマガニ、ヒメアシハラガニ、クシテガニ、ウモレベンケイガニ、ベンケイガニの8種である。

表 2-2-37 事業実施区域及びその周囲の貝類

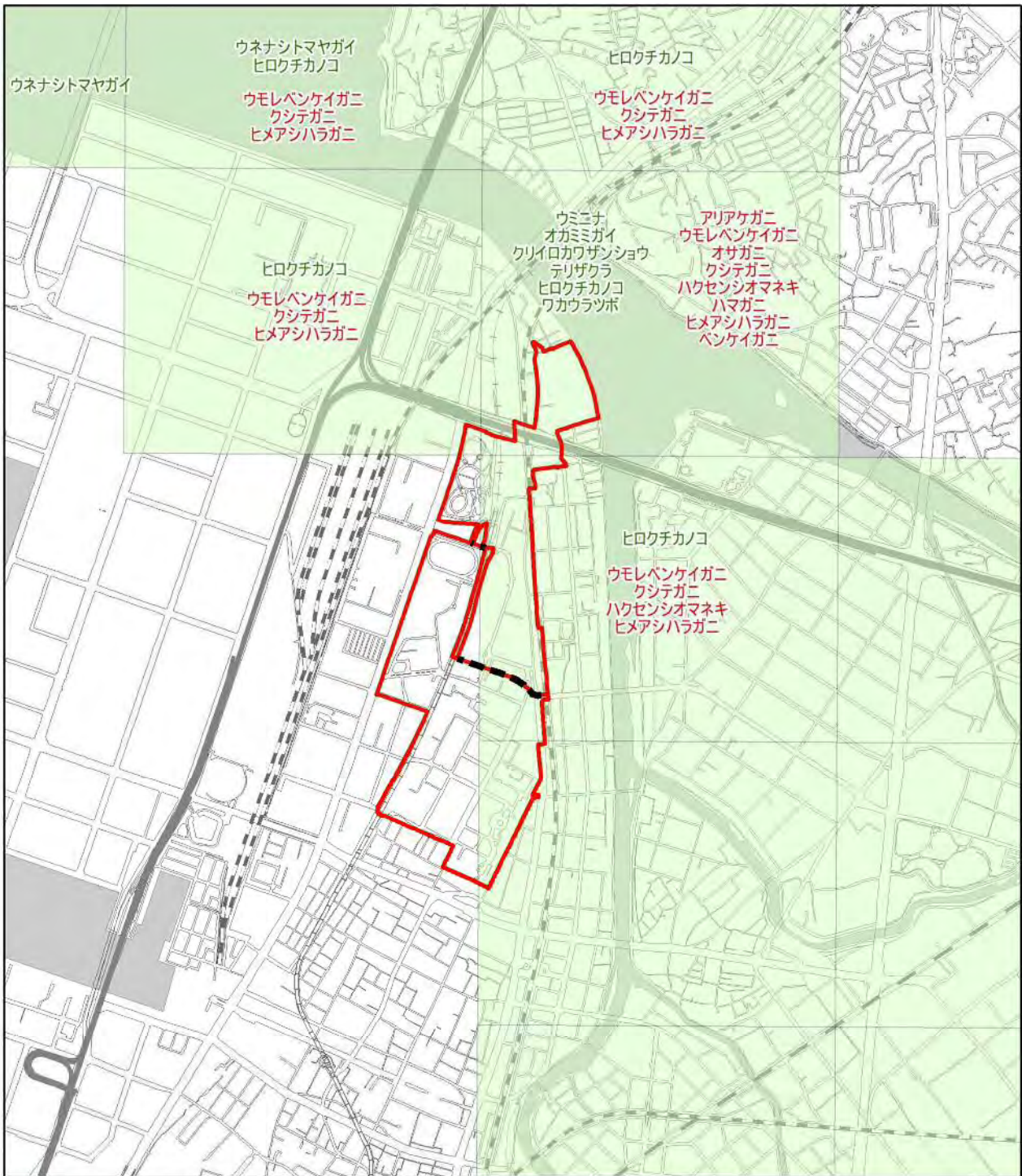
| 目 | 科 | 種名 | 福岡市 環境配 慮指針 | カテゴリー | | |
|---------|---------|-------------|-------------------|------------|------------|--------------|
| | | | | 環境省 RDB | 福岡県 RDB | その他の 指定状況 |
| アマオブネガイ | アマオブネガイ | ヒロクチカノコ | ● | NT | VU | |
| 新生腹足 | ウミニナ | ウミニナ | ● | NT | NT | |
| | カワザンショウ | クリイロカワザンショウ | ● | NT | NT | |
| | ワカウラツボ | ワカウラツボ | ● | VU | NT | |
| 異鰓 | オカミミガイ | オカミミガイ | ● | VU | VU | |
| ザルガイ | ニッコウガイ | テリザクラ | ● | VU | VU | |
| マルスダレガイ | フナガタガイ | ウネナシトマヤガイ | ● | NT | | |

注) 出典: 福岡市環境配慮指針(改定版)(平成28年9月)
 カテゴリー: 環境省 RDB: レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類 (2014年9月)
 VU: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)
 NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)
 福岡県 RDB: 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等
 (平成26年8月)
 VU: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)
 NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)
 その他の指定状況: 天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘
 天然記念物: 「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種
 種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において、国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種に該当する種及び亜種

表 2-2-38 事業実施区域及びその周囲の甲殻類その他

| 目 | 科 | 種名 | 福岡市 環境配 慮指針 | カテゴリー | | |
|----|--------|-----------|-------------------|------------|------------|--------------|
| | | | | 環境省 RDB | 福岡県 RDB | その他の 指定状況 |
| 十脚 | アリアケガニ | アリアケガニ | ● | | EN | |
| | ベンケイガニ | ウモレベンケイガニ | ● | | VU | |
| | | ベンケイガニ | ● | | NT | |
| | | クシテガニ | ● | | NT | |
| | オサガニ | オサガニ | ● | | NT | |
| | スナガニ | ハクセンシオマネキ | ● | VU | VU | |
| | モクズガニ | ハマガニ | ● | | NT | |
| | | ヒメアシハラガニ | ● | | NT | |

注) 出典: 福岡市環境配慮指針(改定版)(平成28年9月)
 カテゴリー: 環境省 RDB: レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 7 甲殻類その他 (2014年9月)
 VU: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)
 福岡県 RDB: 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等
 (平成26年8月)
 EN: 絶滅危惧ⅠB類(ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
 VU: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)
 NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)
 その他の指定状況: 天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘
 天然記念物: 「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種
 種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において、国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種に該当する種及び亜種



凡例

■ 事業実施区域

--- 北エリア・南エリア境界

— 福岡都市高速

— JR

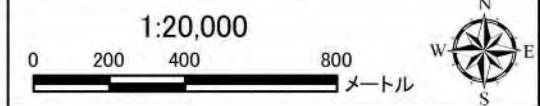
— 新幹線

— 私鉄

— 地下鉄

種名：貝類

種名：甲殻類その他



出典：福岡市環境配慮指針(改定版)(平成28年9月、福岡市)

図 2.2-24 動物の分布状況(貝類、甲殻類その他)

(2) 植物の生育状況

事業実施区域及びその周囲の植生の状況は、図 2-2-25 に示すとおり、公園、市街地、緑の多い市街地である。

なお、多々良川河口には、ヨシ群落が分布している。

植物の重要な種及び群落の生育状況は、「福岡市環境配慮指針(改定版)」(平成 28 年 9 月福岡市環境局)によると、表 2-2-39 及び図 2. 2-26 に示すとおりであり、重要な種はイソホウキギ、カワヂシャ、コギシギシ、シバナ、ハマサジ、ウラギク、フクドの 7 種であり、貴重・希少植物群落はミミズバイースダジイ群集、ムサシアブミータブノキ群集の 2 群落及びヨシクラスである。

表 2. 2-39 事業実施区域及びその周囲の植物

| 科 | 種名 | 福岡市 環境配 慮指針 | カテゴリー | | |
|--------|--------|-------------------|------------|------------|--------------|
| | | | 環境省 RDB | 福岡県 RDB | その他の 指定状況 |
| アカザ | イソホウキギ | ● | | VU | |
| ゴマノハグサ | カワヂシャ | ● | NT | NT | |
| タデ | コギシギシ | ● | VU | VU | |
| シバナ | シバナ | ● | NT | EN | |
| イソマツ | ハマサジ | ● | NT | VU | |
| キク | ウラギク | ● | NT | EN | |
| | フクド | ● | NT | VU | |

注) 出典: 福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

カテゴリー: 環境省 RDB: レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 8 植物 1 (2015 年 3 月)

レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 9 植物 2 (2015 年 2 月)

VU: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

福岡県 RDB: 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011 - 植物群落・植物・哺乳類・鳥類 - (平成 23 年 11 月)

EN: 絶滅危惧ⅠB 類(ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

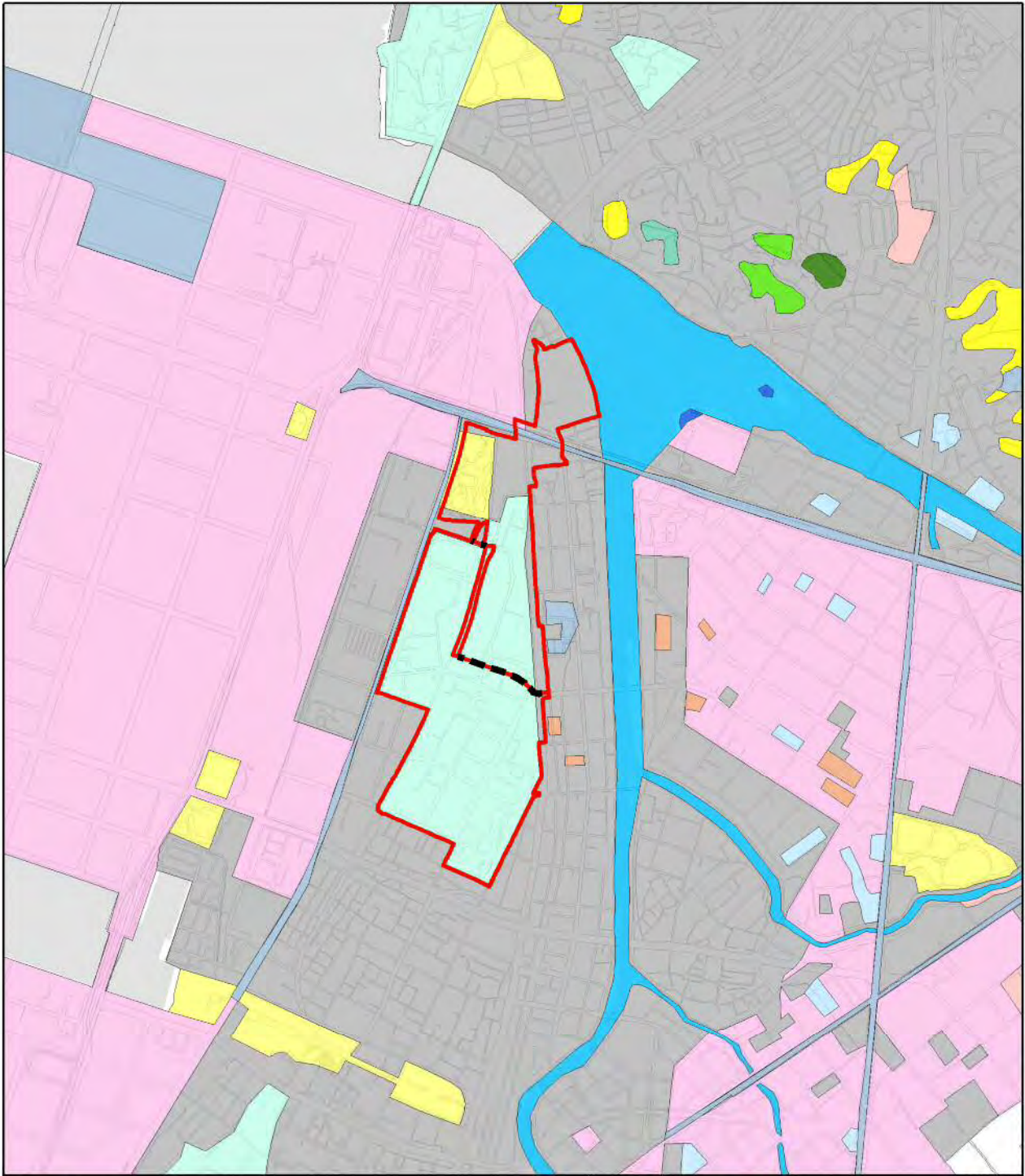
VU: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

その他の指定状況: 天然記念物・種の保存法等の指定状況, 専門家の指摘

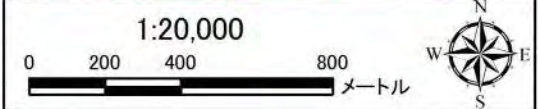
天然記念物: 「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において、国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種に該当する種及び亜種



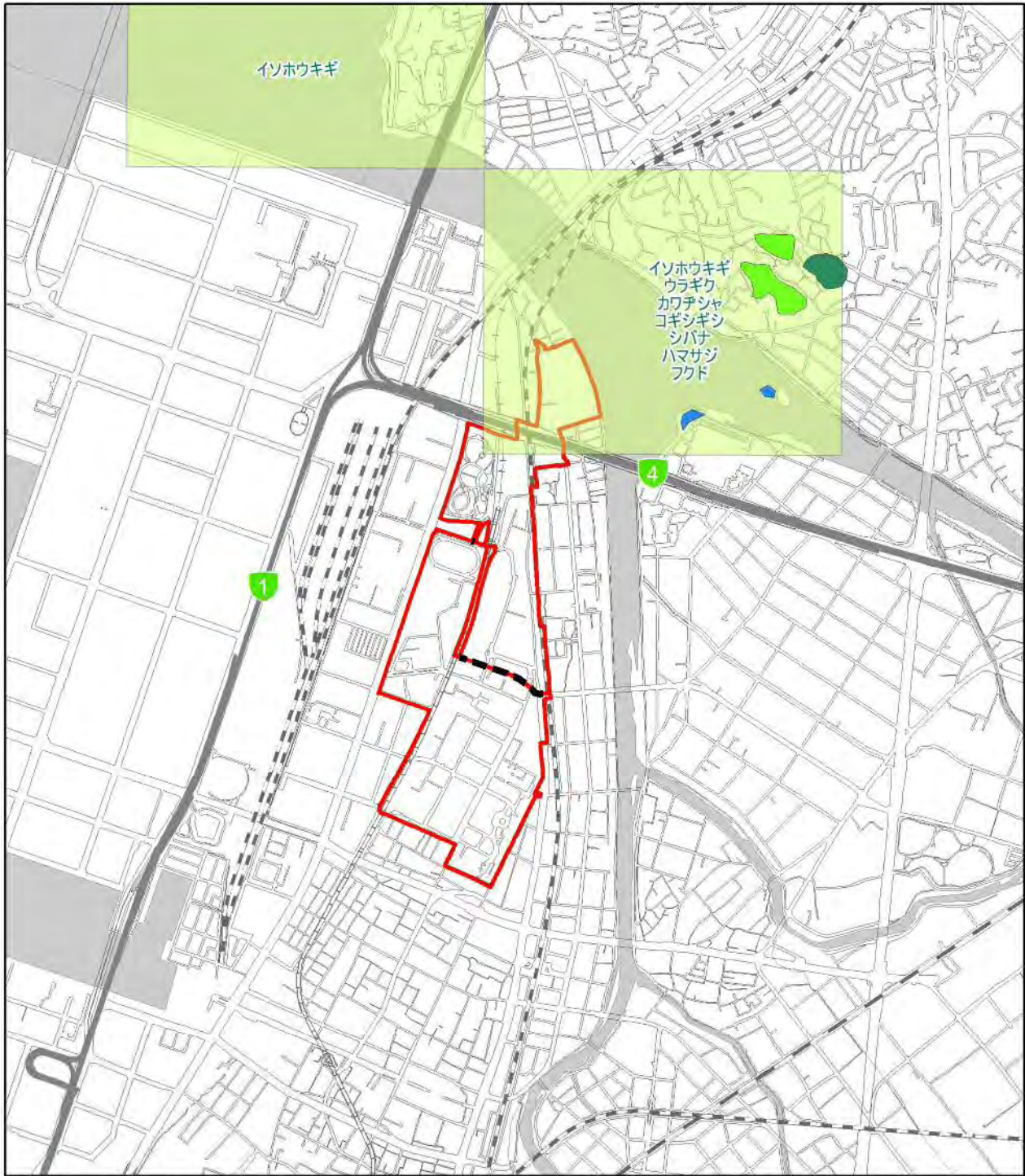
凡 例

- | | | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業実施区域 | ミズバイ-スタジイ群集 | 竹林 | 公園・墓地等 |
| 北エリア・南エリア境界 | タブ-ムサシアブミ群集 | 畑雑草群落 | 工場地帯 |
| | シイ-カシ二次林 | 水田雑草群落 | 造成地 |
| | 路傍・空地雑草群落 | 市街地 | 開放水域 |
| | ヨシクラス | 緑の多い市街地 | 自然裸地 |



出典：平成 25 年度 自然環境調査(植生)報告書(平成 26 年 3 月 福岡市環境局)

図 2.2-25 現存植生図



凡例

■ 事業実施区域

■ 北エリア・南エリア境界

— 福岡都市高速

— JR

— 新幹線

— 私鉄

— 地下鉄

貴重・希少植物群落

■ ミズバイ-スダジイ群集

■ ムサシアブミ-タブノキ群集

■ ヨシクラス

1:20,000

0 200 400 800 メートル



出典：福岡市環境配慮指針(改定版)(平成28年9月、福岡市)

図 2.2-26 植物及び群落の分布状況

(3) 生態系の状況

事業実施区域及びその周囲における生態系は、各文献^{注1)}の引用により生物の生育・生息基盤環境について、地形、地質、土壌、植生、土地利用形態等の観点から類型区分を行い、表 2.2-40 に示す。

事業実施区域及びその周囲は、広く分布する「市街地」、「二次林」、「河川汽水域」に区分され、各環境類型区分の代表的な生物種を、文献(福岡市環境配慮指針(改定版)平成 28 年 9 月)の引用により表 2.2-41 に示す。

「市街地」は、植栽等の植物並びにアブラコウモリ、イタチ、ノネコ、アマガエル、ヤモリ、カナヘビ、スズメ、カワラバト、ハクセキレイ、ツバメ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、アオスジアゲハ、ミカドアゲハ、ヤマトシジミ、ウスバキトンボ、クマゼミ、アブラゼミ、オンブバッタ、メダカ、アメリカザリガニ等の動物が抽出される。

「二次林」は、タブ群落、シイ-カシ萌芽林等の植物並びにアブラコウモリ、イタチ、ノネコ、ヤマカガシ、スズメ、カワラバト、ハクセキレイ、ツバメ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、アオスジアゲハ、ミカドアゲハ、ヤマトシジミ、ウスバキトンボ、クマゼミ、アブラゼミ、オンブバッタ等の動物が抽出される。

「河川汽水域」は、ヨシ群落、塩生植物群落等の植物並びにミシシippアカミミガメ、コサギ、マガモ、コアジサシ、シロウオ、トビハゼ、ヤマトオサガニ等の動物が抽出される。

注 1) 文献の内訳は以下の通り。

地形、地質、土壌：「土地分類基本調査図」昭和 59 年 3 月 国土庁土地局国土調査課

植生、土地利用形態：「平成 25 年度自然環境調査(植生)報告書」平成 26 年 3 月 福岡市環境局

表 2.2-40 事業実施区域及びその周囲の自然環境の類型区分

| 類型区分 | 市街地 | 二次林 | 河川汽水域 |
|------|-------------------------|---------------|-----------|
| 地形区分 | 海浜砂丘、砂浜、平野(三角州)、埋立地 | 丘陵地 | 港、河川 |
| 地質区分 | 砂(海浜砂層)、砂・泥・礫(沖積層) | 砂岩・シルト岩 | — |
| 土壌区分 | 市街地その他 | 乾性褐色森林土・赤色系 | — |
| 植生区分 | 緑の多い市街地、市街地、公園・墓地等、工場地帯 | タブ群落、シイ-カシ萌芽林 | ヨシ群落、開放水面 |

表 2.2-41 事業実施区域及びその周囲における類型区分毎の代表的な生物種

| | 市街地 | 二次林 | 河川汽水域 |
|---------|-------------------------------------------------|---------------|---------------|
| 植物 | 植栽 | タブ群落、シイ-カシ萌芽林 | ヨシ群落、塩生植物群落 |
| ほ乳類 | アブラコウモリ、イタチ、ノネコ | | — |
| 両生類・は虫類 | アマガエル、ヤモリ、カナヘビ | ヤマカガシ | ミシシippアカミミガメ |
| 鳥類 | スズメ、カワラバト、ハクセキレイ、ツバメ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ | | コサギ、マガモ、コアジサシ |
| 昆虫類 | アオスジアゲハ、ミカドアゲハ、ヤマトシジミ、ウスバキトンボ、クマゼミ、アブラゼミ、オンブバッタ | | — |
| 魚類 | メダカ | — | シロウオ、トビハゼ |
| 底生動物 | アメリカザリガニ | — | ヤマトオサガニ |

(4) 特定外来生物の状況

福岡市ではこれまで特定外来生物は、表 2. 2-42(1)～(2)に示す哺乳類 1 種、両生類 1 種、鳥類 2 種、魚類 3 種、クモ類 2 種、サソリ類 1 種、昆虫類 2 種、植物 6 種が確認されている。(<https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-chosei/hp/sizenkankyou/gairaiseibutuhou04048.html>)

これらのうち、人への危害の可能性があり、事業実施区域周辺で確認されているセアカゴケグモ・ハイイロゴケグモ(以下、ゴケグモ類という。)の発見情報等が福岡市のホームページで提供されている。(https://www.city.fukuoka.lg.jp/hofuku/seikatsueisei/life/kurashinoeisei/seakagokegumo_2_2_2_2.html#06)

福岡市におけるセアカゴケグモは、平成 19 年 10 月に福岡市内のアイランドシティコンテナターミナルで初めて発見された後、平成 20 年 9 月には東区の「みなと 100 年公園」他でも発見され、現在では生息範囲が拡がり福岡市全区で確認されている。事業実施区域及びその周囲においては、箱崎小校区、東箱崎小校区、筥松小校区、松島小校区での生息が確認され、駆除の報告もなされている。

また、セアカゴケグモと同類のハイイロゴケグモについては、平成 20 年 9 月 29 日に「みなと 100 年公園」で福岡市内で初めて発見された。

福岡市におけるゴケグモ類の最新の発見状況は、図 2. 2-27 に示すとおりである。なお、ゴケグモ類の発見情報は、前述の福岡市ホームページで情報提供されている。

表 2. 2-42(1) 福岡市で確認された特定外来生物一覧

| 分類 | 名称 | 備考 |
|-----|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 哺乳類 | アライグマ | ペットとして飼育されていた個体が逃げ出したり捨てられたりして国内に定着し、各地で農業被害や生活被害が発生している。 |
| 両生類 | ウシガエル | 食用として各地で放逐され、国内に広く定着している。大型できわめて捕食性が強く、口に入る大きさであれば、ほとんどの動物がエサとなる。 |
| 鳥類 | ソウシチョウ | 飼育が容易で、姿が美しく、声がきれいなため、多数の個体が飼育された。また、伝統的な化粧製品であるウグイスの糞粉の代替品として飼育されていた。それらの個体が逸出したり大量に放たれたりして野生化したとされる。本種と生息環境が類似するウグイスなどの鳥類や、捕食される小動物等への影響が懸念される。 |
| 鳥類 | ガビチョウ | 飼育個体の逃亡や故意の放出が野外への定着の主因である。羽色は焦げ茶が主体で、比較的地味。大きく、複雑な音色でよくさえずる。今後、個体数が増加すれば、在来種を駆逐する恐れがある。 |
| 魚類 | カダヤシ | ボウフラ(蚊の幼虫)退治のため各地に放流され、定着している。各地でメダカと競合し、駆逐している。メダカに似ているが、尾ひれが丸く、シリビレの基部(下部後方にあるヒレ)が短い。 |
| 魚類 | ブルーギル | 釣り魚や観賞魚として持ち込まれ、各地の湖沼やため池、堀などに侵入・定着し、優先魚種の 1 種になっている。雑食性で様々な生物を捕食し、生態系の影響や、漁業被害の可能性も示唆されている。 |
| 魚類 | オオクチバス | コクチバスとあわせ、通称ブラックバスと呼ばれる。釣り魚として人気種であり、各地で意図的な放流が行なわれてきた可能性も指摘されている。一部の観賞魚店では販売もされていた。オオクチバスが定着・急増した湖沼やため池では、捕食や競争により在来種にさまざまな影響を及ぼしている。 |

出典：福岡市ホームページ(<https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-chosei/hp/sizenkankyou/gairaiseibutuhou04048.html>)

表 2.2-42(2) 福岡市で確認された特定外来生物一覧

| 分類 | 名称 | 備考 |
|------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クモ類 | セアカゴケグモ | 貨物や資材にまぎれて持ち込まれたと考えられる。 メスには毒がある。 |
| クモ類 | ハイイロゴケグモ | 貨物や資材にまぎれて持ち込まれたと考えられる。 メスには毒がある。 |
| サソリ類 | キョクトウサソリ科 | 貨物や資材にまぎれて持ち込まれたと考えられる。 尾端に毒針がある。 |
| 昆虫類 | ヒアリ | 貨物や資材にまぎれて持ち込まれたと考えられる。 腹部に毒針がある。 |
| 昆虫類 | アカカミアリ | 貨物や資材にまぎれて持ち込まれたと考えられる。 腹部に毒針がある。 ヒアリと同様に、刺されると強い痛みを伴い、アレルギー症状がひどくなると重症化することがある。 |
| 植物 | オオキンケイギク | 観賞用や緑化のために持ち込まれた。強靱なため、一度定着すると在来の野草を駆逐してしまう。 |
| 植物 | オオフサモ | 1920年頃にドイツ人が持参し、野生化した。 抽水植物(根は水底の土壌中にあり、茎や葉の一部が水面上で育成)で、湖沼・河川・池・水路などの浅水中に群生する。大繁茂し、水流を妨げたり、在来種と競争して駆逐したりするとされている。 |
| 植物 | ボタンウキクサ | 観賞魚の浮き草等として熱帯魚店、ペットショップ、園芸店、ホームセンターなどで広く流通・販売があった。 浮遊性の水草で、水面を覆い尽くし、水中の光や酸素不足から他の植物や魚介類への影響が指摘されている。水路の通水障害も引き起こす。 |
| 植物 | アレチウリ | 輸入大豆に種子が混入していたためとされる。近年は輸入飼育用の穀物に混入し、全国の飼料畑や河川敷で多くみられる。 全国で大繁茂し、河原の固有種との競合や駆逐のおそれがある。 ※福岡市では、平成18年度の調査で一度発見されているが、平成23年度の調査では発見されず、定着状況は不明 |
| 植物 | ブラジルチドメグサ | 魚の飼育用や観賞用として輸入され、ペットショップやインターネット上で市販されていた。 泥に根を張って生活するとともに、水面を浮遊して分布を拡大する。水面を覆い尽くし、水中の光や酸素不足から他の植物や水生生物への影響のおそれが指摘されている。 |
| 植物 | ナルトサワギク | 開花期はほぼ一年中であり成長段階の早い時期でも開花結実する。 急速に分布を拡大し、在来種と競合するおそれがある。 アルカロイドの一種であるセネシオニンやセネシオフィリンなどを含むため、家畜等の草食動物に対して有毒である。 |

出典：福岡市ホームページ(<https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-chosei/hp/sizenkankyou/gairaiseibutuhou04048.html>)

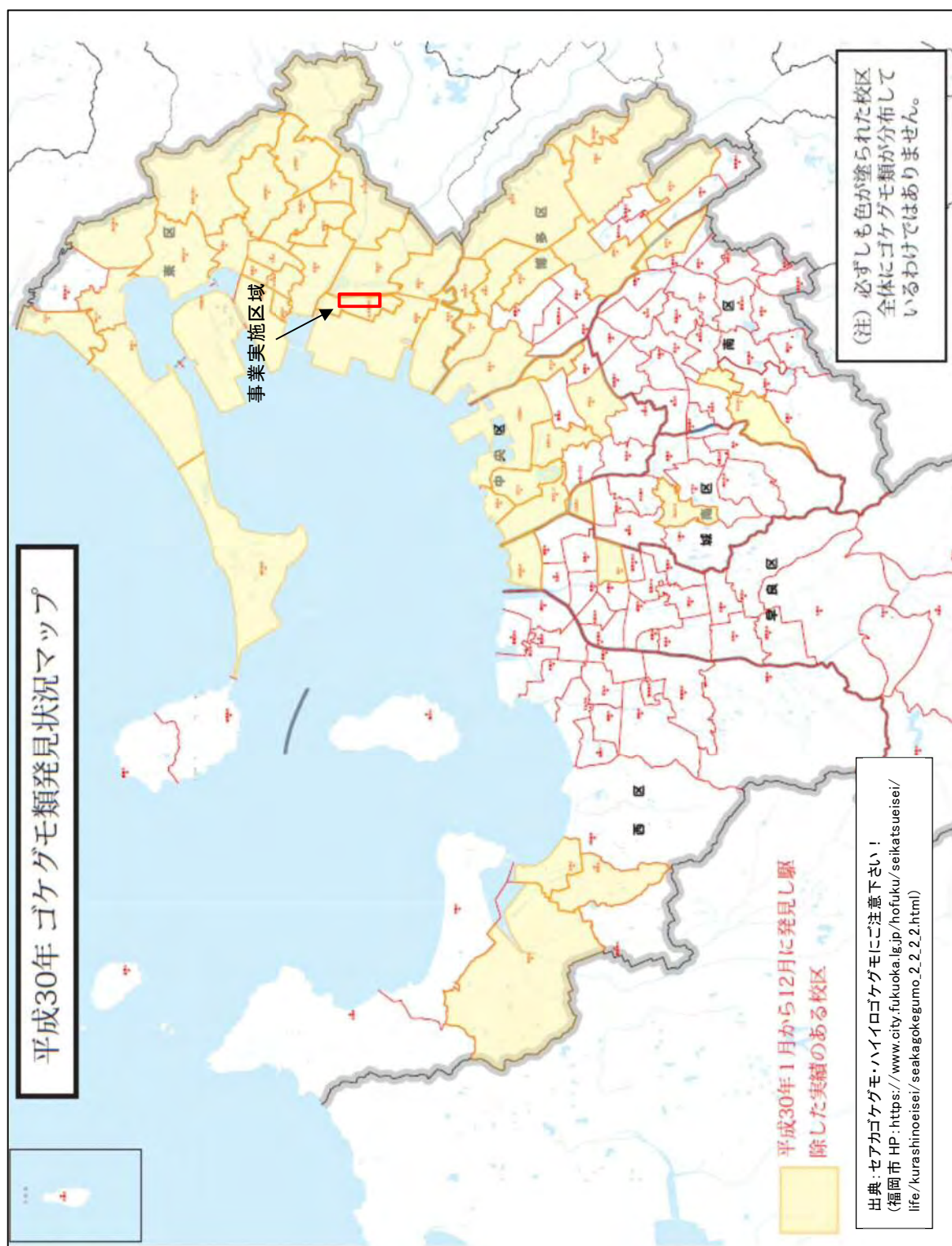


図 2.2-27 ゴケグモ類発見状況マップ（平成30年1月～平成30年12月）

(5) 専門家のヒアリング

事業実施区域及びその周囲における動物、植物、生態系の状況について、当該地域に詳しい専門家にヒアリングを行った。ヒアリング対象者を表 2.2-43、ヒアリング結果を表 2.2-44(1)～(4)に示す。

表 2.2-43 ヒアリング対象者

| 対象者 | 所属機関の属性 | 主な専門分野・研究対象 |
|-------|---------|-----------------|
| 専門家 A | 大学 | 園芸学 |
| 専門家 B | 大学 | 魚類学 |
| 専門家 C | 地元研究者 | 鳥類 |
| 専門家 D | 大学 | 基礎生物学 |
| 専門家 E | 大学 | 昆虫学 |
| 専門家 F | 大学 | 植物、生態学、生物多様性保全 |
| 専門家 G | 大学 | 動物学、動物発生学、細胞生物学 |

表 2.2-44(1) ヒアリング結果

| 対象者 | 項目 | ヒアリング結果 |
|-------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門家 A | 植物 | <ul style="list-style-type: none"> ・農学部の敷地に、貴重な竹や重要な種があると聞いている。 ・宇美川への影響について、工事中及び供用後に排水がある場合、モニタリングが必要である。また、水の流れが変わると、塩生湿性植物への影響が考えられる。 ・昆虫が利用する食樹等について、九州大学で詳細の調査を行っている。 ・樹木の保存について、地元の意向を聞きながら将来のまちづくり等で活用していくべき。また、生態系の保全ゾーンも創るべきである。 |
| 専門家 B | 水生生物 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇美川、多々良川の河口の干潟には、ハゼ類が生息している。具体的には、チクゼンハゼ、エドハゼ、マサゴハゼ、タビラクチなど。このうち、エドハゼ、マサゴハゼ、タビラクチは干潟に産卵区域がある。 ・ヨシ原は、多々良川右岸と東部水処理センター付近の左岸にあり、距離は離れている。 ・ニッポンバラタナゴは多々良川水系で近年確認していないが全くいないというわけではない。上流の猪野川のタナゴ類はタイリクバラタナゴであった。事業実施区域周辺は汽水域だから分布はしていない。 ・多々良川河口干潟には、クロツラヘラサギ等水鳥の餌生物がある。 ・工事中の濁水の排水や干潟の改変に繋がる工事は行うべきではない。 ・中学校跡地等に重要な種を集めたビオトープができればいいと思う。 |

表 2.2-44(2) ヒアリング結果

| 対象者 | 項目 | ヒアリング結果 |
|-------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門家 C | 鳥類 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇美川は博多湾に直接流れていたものを、箱崎方面へ曲げ多々良川下流へ合流するように造られた河川であり箱崎キャンパスの地盤は砂質である。 ・上流から流れてくる土砂は多々良川より宇美川のほうが多く、多々良川と宇美川の合流点は、過去掘削除去している。 ・東部水処理センター付近の水辺に塩生湿性植物を移植した。 ・毎年冬場に東部水処理センター付近でバードウォッチングを行っており、2 時間程度で 50 種類の鳥を確認できる。 ・和白干潟、人工島、あいたか橋北側の緑地等とのつながりを見ながら、ネットワークに配慮すべきと考えている。 ・人工島周辺のガンカモ類が減ったと言われているが、この地域だけではなく、渡り鳥のルート上の他国の状況も考えるべき。例えば、クロツラヘラサギは国内では増えているが、韓国では減っており、これは生息環境の変化によるものと考えられる。 ・工事中、一般的に鳥類は回避行動を取る。 ・猛禽類で工事中の大きな音で繁殖行動をやめる種もいる。 ・クロツラヘラサギ等渡り鳥の移動ルートは箱崎キャンパスの上空を通過するのではなく、宇美川河口及び多々良川河口の方向へ川に沿って飛んでいくことから、影響は小さいと考えている。 ・工事の際は、コチドリ、シロチドリ、コアジサシなどの水鳥の繁殖場所や時期を把握し、工事の時期を調整するなどの配慮が必要。また、貝塚公園については、シジュウカラ、コゲラ、ヤマガラなどの繁殖場所や時期を把握する必要がある。 |
| 専門家 D | 哺乳類 | <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査で哺乳類を確認していくしかないが、重要種としてイタチ(準絶滅危惧)、カヤネズミ(絶滅危惧Ⅱ類)、コウモリ類(テングコウモリ: 絶滅危惧Ⅱ類)が考えられる。 ・イタチは、ほぼチョウセンイタチと考えられるが、ニホンイタチとの区別は糞のDNA鑑定で確認できる。 ・「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011 -植物群落・植物・鳥類・哺乳類-」(平成 23 年 11 月、福岡県)によると、アナグマは重要な種の対象外となった。 ・陸域生態系として、周辺の風致地区や公園等と結びつく地域のエコロジカルネットワークがあればいいと思う。 |

表 2.2-44(3) ヒアリング結果

| 対象者 | 項目 | ヒアリング結果 |
|-------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門家 E | 昆虫類 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施区域に分布する主な重要な昆虫類として、ミカドアゲハ、トラフカミキリ(福岡県絶滅危惧Ⅱ類)、ベニイトトンボ(環境省準絶滅危惧)、ハルゼミ(福岡県準絶滅危惧)が挙げられる。 ・昆虫類の食樹等は、ミカドアゲハについては、タイサンボク、タイワンオガタマノキ、トラフカミキリについてはクワ、ベニイトトンボは防火水槽等である。 ・ミカドアゲハについては、地区内で保全できればよいが、近年は市内でも増加傾向にあり、必ずしも保全が必要ということではない。 ・昆虫類を保全するには、発生木と吸蜜植物などの餌植物がセットになった環境が必要であり、(現在の環境を)そのまま残すことが望ましい。新たに生息環境を整備したとしても、(昆虫類が)定着するとは限らない。 ・箱崎キャンパス内の昆虫類相は、周辺とは異なる特殊な昆虫類相となっている。特に外来の植物では外来の昆虫類が確認されることが多い。また、外来性の昆虫類等としては、セアカゴケグモ等がキャンパス内で確認されている。 ・生態系としては、平地の松林にいる海浜性の昆虫相である。 ・海浜性の種としては、スナゴミムシダマシ、ヨコバイ類が挙げられる。 ・コウボウムギがあれば、スナヨコバイ(環境省準絶滅危惧、福岡県準絶滅危惧)が生息している可能性が高い。 ・多々良川河口の汽水域のヨシ原にヨドシロヘリハンミョウ(環境省絶滅危惧Ⅱ類、福岡県絶滅危惧ⅠB類)が生息している記録がある。 ・多々良川河口汽水域と事業実施区域では、昆虫類については生息環境が大きく異なるので、生態系構成種の交流はない。 |

表 2.2-44(4) ヒアリング結果

| 対象者 | 項目 | ヒアリング結果 |
|-------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門家 F | 植物、生態系 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施区域に分布する主な重要な植物として、イヌドクサが挙げられる。多々良川河口の土手にも分布している。 ・ウマノスズクサ(環境省、福岡県は指定なし。市環境配慮指針に記載なし。ジャコウアゲハの食草)がキャンパス内の松林で確認した。 ・重要な植物ではないが、ツルボは研究のため日本各地から集めて植えていると思われる。 ・特徴的な植生としては、小松門南側の二次林が挙げられる。本植生はキャンパス内では唯一の自然に近い植生である。また、植栽ではあるがまとまった植生としては、中央図書館横の六角堂周辺、地蔵の森が挙げられる。 ・農学部周辺の植生は、ほとんどが植栽である。 ・もともと砂地であり、ハマヒルガオが多く見られる。また、外来種であるコバンソウ、ルリハコベも確認している。 ・汽水域の植生としては目立ったものは確認していないが、博多湾に面する地域にはシバナ群落やハマサジ、ウラギクが多く見られる。 ・キャンパス内の哺乳類は、タヌキ、チョウセンイタチ(恐らく)、両生類のカスミサンショウウオ(環境省・福岡県の絶滅危惧Ⅱ類)が挙げられる。 ・アブラコウモリ(哺乳類)、ヤモリ(爬虫類)も多く見られる。 ・鳥類は、冬の渡り鳥であるジョウビタキ、ヒヨドリ、ムクドリ類が挙げられる。 ・箱崎キャンパスは緑が多い地区であり、まちづくりを進める上で、植被率の設定、実がなる樹木の植樹が必要と考えている。これにより、鳥類を呼び込み、外来種の進入を抑制できると考えられる。 ・造成時の注意点として、客土すると土壌中の窒素等栄養塩が増えセイタカアワダチソウが出てくる。もともと砂地であることを踏まえ、貧栄養環境(砂地)を維持したほうがよい。 |
| 専門家 G | 哺乳類 | <ul style="list-style-type: none"> ・九州大学に生息する哺乳類は、チョウセンイタチ(外来種)、アブラコウモリ(イエコウモリ)である。 ・アブラコウモリは事業実施区域だけでなく福岡市内に広く分布する。 ・農学部の貝塚圃場にまとまった森林がある。 ・その他の哺乳類として、ノネズミ、ドブネズミは確認しているがアカネズミはいない。また、アライグマもいないと思われる。 ・小型のシャーマントラップは、アカネズミは生息していないのであまり意味がない。クマネズミなどは大型のシャーマントラップがよい。 ・夜間自動撮影による調査を検討した方がよい。 |

2.2.6 景観、人と自然との触れ合いの活動の場の状況

(1) 景観の状況

1) 主要な眺望点

事業実施区域及びその周囲の主要な眺望点の状況を、表 2.2-45 及び図 2.2-28 に示す。

事業実施区域を見渡すことができ、かつ、「不特定多数のものが利用している景観資源を眺望する場所」である眺望点は、多々良川緑地、地蔵松原公園、汐井公園(野球場)の3箇所である。

表 2.2-45 主要な眺望点

| 区 分 | 名 称 |
|--------|-----------|
| 主要な眺望点 | 多々良川緑地 |
| | 地蔵松原公園 |
| | 汐井公園(野球場) |

出典：福岡県観光情報クロスロードふくおか((公社)福岡県観光連盟)
注)平成 28 年 12 月時点の HP 掲載分で現状とは異なる。

2) 景観資源

事業実施区域及びその周囲の景観資源の状況を、表 2.2-46 及び図 2.2-28 に示す。

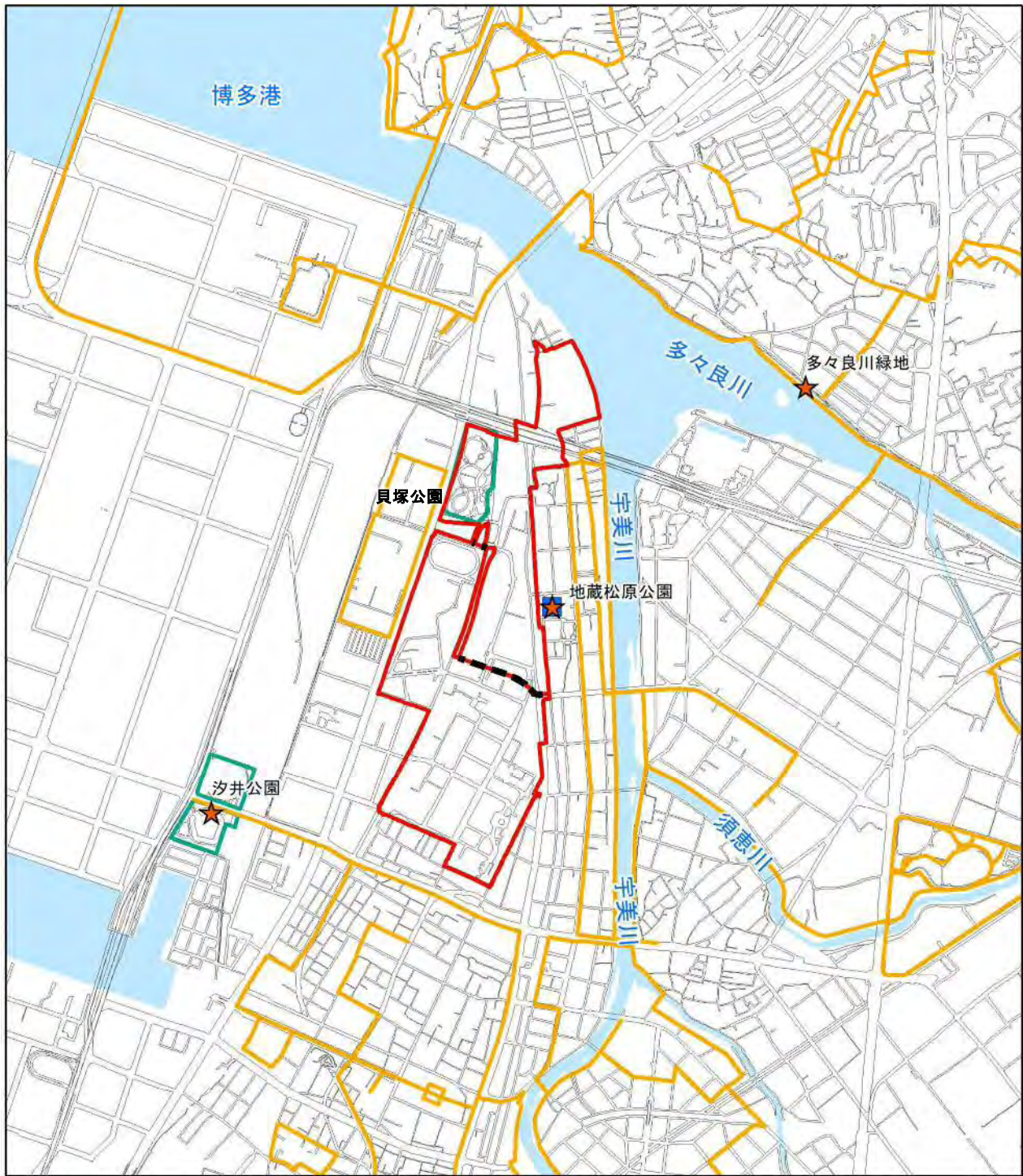
「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」により自然的構成要素として位置づけられる主な景観資源は確認されていない。

また、自然景観、歴史・文化の分野における福岡県の観光地として、国、県、市指定の史跡が点在しており、地蔵松原公園には元寇防塁(国指定史跡)が存在するため自然景観資源以外の主な景観資源となっている。

表 2.2-46 景観資源

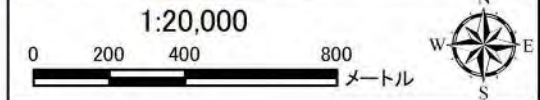
| 区 分 | 名 称 |
|------|----------------------------------------------|
| 景観資源 | 自然景観資源 — |
| | 自然景観資源以外の 主な景観資源 元寇防塁(地蔵松原公園) 国指定史跡 |

出典：第 3 回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書(平成元年、環境庁)
福岡市歴史文化情報データベース(福岡市経済観光文化局)



凡例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 水域
- ★ 眺望点
- 東区ウォーキングルート
- 景観資源
- 公園



出典：福岡県観光情報「クロスロードふくおか」((公社)福岡県観光連盟)
福岡市歴史文化情報データベース」(福岡市経済観光文化局)

図 2.2-28 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場

(2) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

事業実施区域及びその周囲の人と自然との触れ合いの活動の場の状況を、表 2.2-47 及び図 2.2-28 に示す。

人が多く集まる場所として、貝塚公園、多々良川緑地、地蔵松原公園、汐井公園の4箇所及び東区ウォーキングコースが分布する。

表 2.2-47 人と自然との触れ合いの活動の場

| 区分 | 名称 |
|-----------|-------------|
| 公園・緑地 | 貝塚公園 |
| | 多々良川緑地 |
| | 地蔵松原公園 |
| | 汐井公園 |
| ウォーキングコース | 東区ウォーキングコース |

2.2.7 一般環境中の放射性物質の状況

事業実施区域の周囲の一般環境中の放射性物質(放射線の量)の状況は、表 2.2-48 に示すとおり、図 2.2-1 に示す近傍の一般環境大気測定局である東局(箱崎中学校校庭)、吉塚局(東吉塚小学校校庭)で年 4 回測定されており、平成 25~29 年の放射線量は東局が 0.06~0.08 μ Sv/時、吉塚局が 0.06~0.07 μ Sv/時であり大きな変動はない。(公衆被曝線量限度は 1mSv/年。ICRP(国際放射線防護委員会)1990 年勧告より。1mSv=1,000 μ Sv。)

事業実施区域の放射線の量の調査結果(平成 29 年 1 月 12 日測定)は、表 2.2-49 に示すとおり平均で 0.05~0.07 μ Sv/時であり(参考資料 11)、東局や吉塚局の調査結果と同程度である。

また、過去に放射性同位元素の使用履歴のあった室内においても、平均値で 0.06~0.08 μ Sv/時と、他調査結果と同程度であることが確認されている。

なお、現在、九州大学で放射性同位元素及び核燃料物質を使用中の施設においては、九州大学が月 1 回放射線の量を測定し、関係法令の基準に適合していることを確認している(管理区域境界における線量:1.3mSv/3 月間、事業所及び周辺監視区域境界における線量:250 μ Sv/3 月間及び 1mSv/1 年)。

表 2.2-48 事業実施区域の周囲の放射線の量の資料調査結果

| 測定場所 | 測定年 | 測定結果(μ Sv/時) | | | | |
|---------------|-----|-------------------|------|------|------|------|
| | | 3月 | 6月 | 9月 | 12月 | |
| 一般環境 大気測定局 | 東 | 平成25年 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | 0.07 |
| | | 平成26年 | 0.07 | 0.07 | 0.06 | 0.08 |
| | | 平成27年 | 0.07 | 0.10 | 0.06 | 0.07 |
| | | 平成28年 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | 0.07 |
| | | 平成29年 | 0.07 | 0.07 | - | 0.06 |
| | 吉塚 | 平成25年 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | 0.07 |
| | | 平成26年 | 0.07 | 0.06 | 0.07 | 0.06 |
| | | 平成27年 | 0.07 | 0.07 | 0.06 | 0.06 |
| | | 平成28年 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | 0.07 |
| | | 平成29年 | 0.07 | 0.07 | - | 0.07 |

注) μ Sv/時: マイクロシーベルト/時間(1mSv=1,000 μ Sv)

出典: 福岡市ホームページ(過去の空間放射線量測定結果)

表 2.2-49 事業実施区域の放射線の量の現地調査結果(平成 29 年 1 月 12 日測定)

| 測定場所 | 放射線の量 (μ Sv/時) | 現場の状況 |
|--------------|------------------------|--------|
| 貝塚公園(対照点) | 0.05 | 芝地 |
| 農学部三号館 | 0.05 | アスファルト |
| 農学部五号館 | 0.06 | 裸地 |
| 農学部六号館 | 0.06 | 裸地 |
| アイソトープ総合センター | 0.06 | アスファルト |
| エネルギー量子棟 | 0.07 | 草地 |

注) 測定機器: シンチレーションセンサーバイメータ TCS-172B(日立アロカメディカル)、測定高さ: 地盤高+1m。